

令和8年度 佐賀市立赤松小学校 教育課程

1 学校教育目標

ふるさと赤松を大切にし 志をもって行動できる子どもの育成

2 本年度の重点目標

みんなも幸せ、自分も幸せになる学校

3 重点取組内容

(1)学習指導の充実

○自己決定・自己選択させる授業の充実

・学び方、学習課題・課題解決方法等を児童が、自分で考え、自分で決めながら学ぶ学習過程により、児童の主体性を伸ばす。ただし、そこには全ての児童が学びに集中する姿がなければならない。

○「深い学び」の実現

・「深い学び」とは、知識を関連付けてより深く理解したり、新たな考えを創造したりする学びである。
・単元のまとまりごとの授業づくりや、書く、話すなどの活動を通じ、知識の理解や思考したことを表現することを核として「深い学び」の実現に迫る。

○自らやりたいくなる探究的な学び(活動・体験)の充実

・「やらせられる生活・総合」から、児童が主語の「やりたい生活・総合」への変革
・生活科、総合的な学習の時間において、地域資源を活用した、地域住民(赤松ラーニングパートナー)と探究する学びの展開、充実

(2)生徒指導の充実

○みんなが幸せな学級・学校づくりの実践

・最上位目標「みんなも幸せ、自分も幸せになる学校」を基に、合意形成の話し合い活動の浸透を図る。
・合意形成を基にした、みんなが幸せな学級・学校づくりを経験させる中で、よりよい社会のづくり手としての当事者意識を育てる。
・少数意見を大切にしたい合意形成の対話をもとに、少数者(マイノリティ)を尊重する意識を高める。
・みんなが幸せになることを前提に、学校や学級のルールを児童が考え決める機会を意図的、計画的に設定する。

○伴走支援の充実

・児童の意思を尊重しながら、児童が納得できる部分を探し、自己決定を促すことを通して、児童の主体性を高める。

(3)特別支援教育の充実

○教育のユニバーサルデザイン化(UD化)の推進

・生活環境のUD化、学習環境のUD化、人的環境のUD化を柱として、全ての児童に学びと育ちを保障する環境づくりを図る。

・徹底した児童理解と共有化により、全ての児童に学びと育ちを保障する。

○児童の実態に応じた自立活動の実施

・特別支援学級に在籍する児童における自立活動の重要性を認識し、児童の実態や成長に合わせた教育内容を設定し、実施する。

(4)コミュニティ・スクールの発展

○地域の創り手としての児童の育成(児童のCSへの参画)

・「赤松ラーニングパートナー」と共に探究し続ける学びへのチャレンジ
・地域課題について共に考え、地域づくりの当事者としての意識を高める。

○応援企業コミュニティ活動の推進、定着

・持続可能な支援金制度の確立
・地元企業へのコミュニティ・スクール制度の理解促進を図り、学校、保護者、地元企業による地域をあげて児童を支える風土の強化

○「新わくわくカード」システムの運用開始による児童の地域及び赤松コミュニティ関連行事への参加促進

